

## D I F 3 plus インターフェース・ユニット

DIF-3plus インターフェース・ユニット(以降 I/F ユニット)には、DIF-3plus デジタル・モード・インターフェース基板が内蔵されております。パーソナルコンピュータ(パソコン)およびトランシーバー(TRCV)との接続は I/F ユニットに付属しているコネクタを使用してケーブルを製作した上で行います。完成品のケーブルをお求めになった方も、各ケーブルに関する説明をお読みになって、その役割や信号の流れ等を理解されて下さい。

### 1. 接続ケーブルの製作

付属のコネクタを使って次のケーブルを製作して下さい(各ケーブルの長さは 1m 以内となるようにして下さい)。

**DATA ケーブル**・・・I/F ユニットの DATA コネクタ(DIN8 ピン)とトランシーバーを結ぶケーブルです。裏面のコネクタの説明、図 2 の接続図、ご使用トランシーバーのマニュアルを参照して製作して下さい。  
必ずシールド線をお使い下さい。

**CW KEY ケーブル**・・・I/F ユニットの CW KEY コネクタ(RCA ジャック)には、COM ポートの DTR 信号を KEY 出力とした CW 信号(キーダウン時 GND レベル)が出力されます。必ずシールド線をお使い下さい(図 2 参照)。

**S.IN/S.OUT ケーブル**・・・I/F ユニットの S.IN/S.OUT ミニジャックとパソコンのサウンド装置の入出力(AF)信号を結ぶケーブルです。I/F ユニット側のミニプラグはモノラル用を、サウンド装置の入出力側のミニプラグにはステレオ用のものを使います。必ずシールド線をお使い下さい。また、パソコン側のステレオ型ミニプラグは先端が信号となるように配線して下さい。

**RS ケーブル**・・・パソコンの COM ポート(DSUB コネクタ)と I/F ユニットの RS コネクタ(DIN5 ピン)を接続するケーブルです。必ずシールド線をお使い下さい。市販の RS232C ケーブルを改造して使うときれいに仕上がります。

### 2. 接続と設定および調整

1. で製作したケーブルの配線に間違いがないことを十分確認して下さい。ケーブルを図 1 のように接続します。I/F ユニットのふたを開け(ケースの切り込み部分をマ

イナス型ドライバー等で開けます) インターフェース基板説明の 2 項を参照に設定と調整を行います。

### 3. 運用上の注意

I/F ユニットで扱うデータ(AF)信号は非常にレベルが低く、アンテナのマッチングが悪かったりしますと RF 信号の回り込み等を起こすことが有ります。そのようなトラブルが生じた場合は、各ケーブルにノイズ阻止用のフェライトコア(分割タイプが便利)取り付けて下さい。

DIF3plus デジタル・コミュニケーション・インターフェース・ユニットの PTT や FSK 回路は TR および IC 回路を使ったトランシーバー等の制御を考慮して作られております。旧型の真空管式装置に対して直接接続しますと回路が壊れる恐れがありますので、絶対に使用しないで下さい。

### (有) テクニカル シャック

〒 222-0025 横浜市港北区篠原西町 33-27

TEL/FAX:045-432-1250

E-MAIL: tshack@246.ne.jp

URL: <http://www.246.ne.jp/~tshack/>



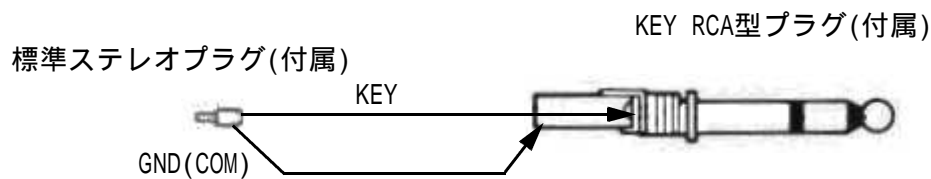


図2 CW ケーブル(付属のプラグとケーブルを使って配線されて下さい)

### <注意とお願い>

- DIF-3の保証期間は、お買い求めになってから1年です。
- DIF-3の改造はおやめ下さい。
- DIF-3は、使用されるソフトウェア、およびパーソナルコンピュータの不具合に対し自動的に対応できる機能は持っておりません。また、アマチュア無線以外の用途に関しましては一切保障いたしませんので、ご理解下さい。

### (有) テクニカル シャック

〒 222-0025 横浜市港北区篠原西町 33-27

TEL/FAX:045-432-1250

E-MAIL: tshack@246.ne.jp

URL: <http://www.246.ne.jp/~tshack/>

## DIF-3plus デジタル・モード インターフェース基板

DIF-3plusは、パーソナル・コンピュータ(パソコン)上で動作するRTTY, PSK, SSTV, CW等のデジタル・モード、CWプログラムからのコントロール信号および音声(データ)信号を、トランシーバー(TRCV)と接続するためのインターフェース基板です。動作が確認されている対応ソフトは MMTTY, MMSSTV, RITTY, RTCL, Logger, Logger32, WinPSK, HALPSK, TRLOG, CWDecorderXP、等で、PTT, FSK そして CW 等のコントロール信号がそれぞれ COMポートの RTS、TXD、DTR に出力されているものに限られます。その他の用途でお使いになった場合の動作は一切保障いたしませんのでご注意ください。

### 1. 各種設定と調整方法について

基板には1カ所のジャンパー設定と2カ所の調整部分があります(図1を参照)。

#### < AUDジャンパー >

パソコンのサウンド入力に対するレベルを設定します。通常はL側で使用して下さい。もし入力レベルが少ない場合にはH側に設定します。H側でもレベルが低い場合は、TRCV側のオーディオ出力レベルが低い可能性があります。

#### < AUDレベル(R4) >

パソコンのサウンド入力へのレベルを調整するVRです。MIC入力しか用意されていないパソコン等では特に有効です。

#### < SOUNDレベル(R2) >

パソコンのサウンド出力を調整するVRです。TRCV側の動作レベルが最適となるように調整します。

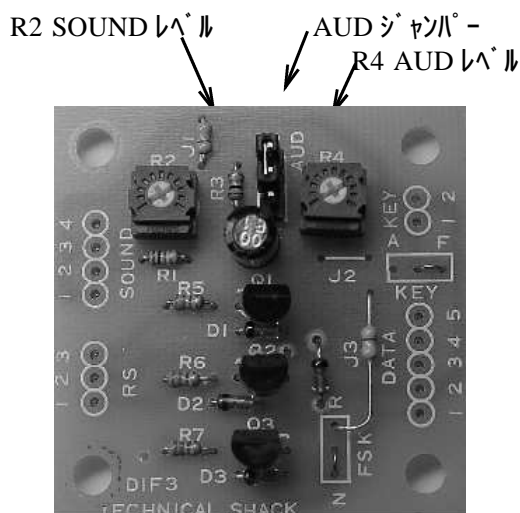


図1 DIF3plus 設定、調整部名称

### (有)テクニカル シャック

〒 222-0025 横浜市港北区篠原西町 33-27

TEL/FAX:045-432-1250

E-MAIL: tshack@246.ne.jp

URL: <http://www.246.ne.jp/~tshack/>